

▼ 3本の木の願い ▼

校長 阿南 孝也

「3本の木」(アンジェラ・エルウェル・ハント原作、いのちのことば社)という絵本をご紹介します。

ある山に、将来への夢を持った3本の木がありました。1本目は世界一美しい宝石箱になりたい、2本目は世界一強く威風堂々とした帆船になりたい、3本目は見る人が神様のことを考える世界一背の高い木になりたいという夢を持っていました。ところが、1本目は家畜のえさを入れる木箱に、2本目は小さな漁船に、3本目は材木にされて、倉庫に置き去りとなったのです。

それから長い年月が過ぎて、3本の木は自分たちの夢を忘れてしまった頃のことでした。宝石箱になりたかった木は、クリスマスの夜、馬小屋で、幼子イエスを寝かせる飼葉おけになりました。強い船になりたかった木は、嵐のガリラヤ湖で、嵐を静めるイエスと弟子たちを乗せたのです。神様を思い出してもらえる木になりたかった3本目は、人々の罪を担ったイエスがかけられる十字架になりました。3本の木の夢は、当初の願いとは異なる形で、神の愛で美しく、強く、皆が神様のことを考える木となりました。こうして、3本の木の願いは、すべてかなえられたのです。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。・・・あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。(ヨハネによる福音書15章5・7節)

神様は、私たちの願いをすべてご存じです。そして、私たちの想像をはるかに超える素晴らしい形で、その願いをかなえてくださる方なのです。

9月には文化祭、体育祭という洛星の誇る行事があり、10月には前期末考査が控えています。洛星の生徒たちが、互いに学び合い、競い合う中で成長してくれることを期待しています。興味を持つことを見つけて、さらに学びを深めてほしい、そう願っています。

常に良いものを与え導いてくださる神様を信頼しながら、大切な行事や日々の学びを通して、神様からいただいた賜物を磨き伸ばしてくれることを切に願っています。